

フランス語における談話標識 « bon »と« ben »

-地域・用法・個人の差異に着目して-

2021年12月19日（日）科研B第2回研究会

大河原 香穂（東京外国語大学大学院 博士後期課程）
清宮 貴雅（東京外国語大学大学院 博士後期課程）
川口 裕司（東京外国語大学）

目次

はじめに

研究目的

コーパス

分析方法：分類基準，統計的処理の手法

分析：benの分析，bonの分析

結論

参考文献

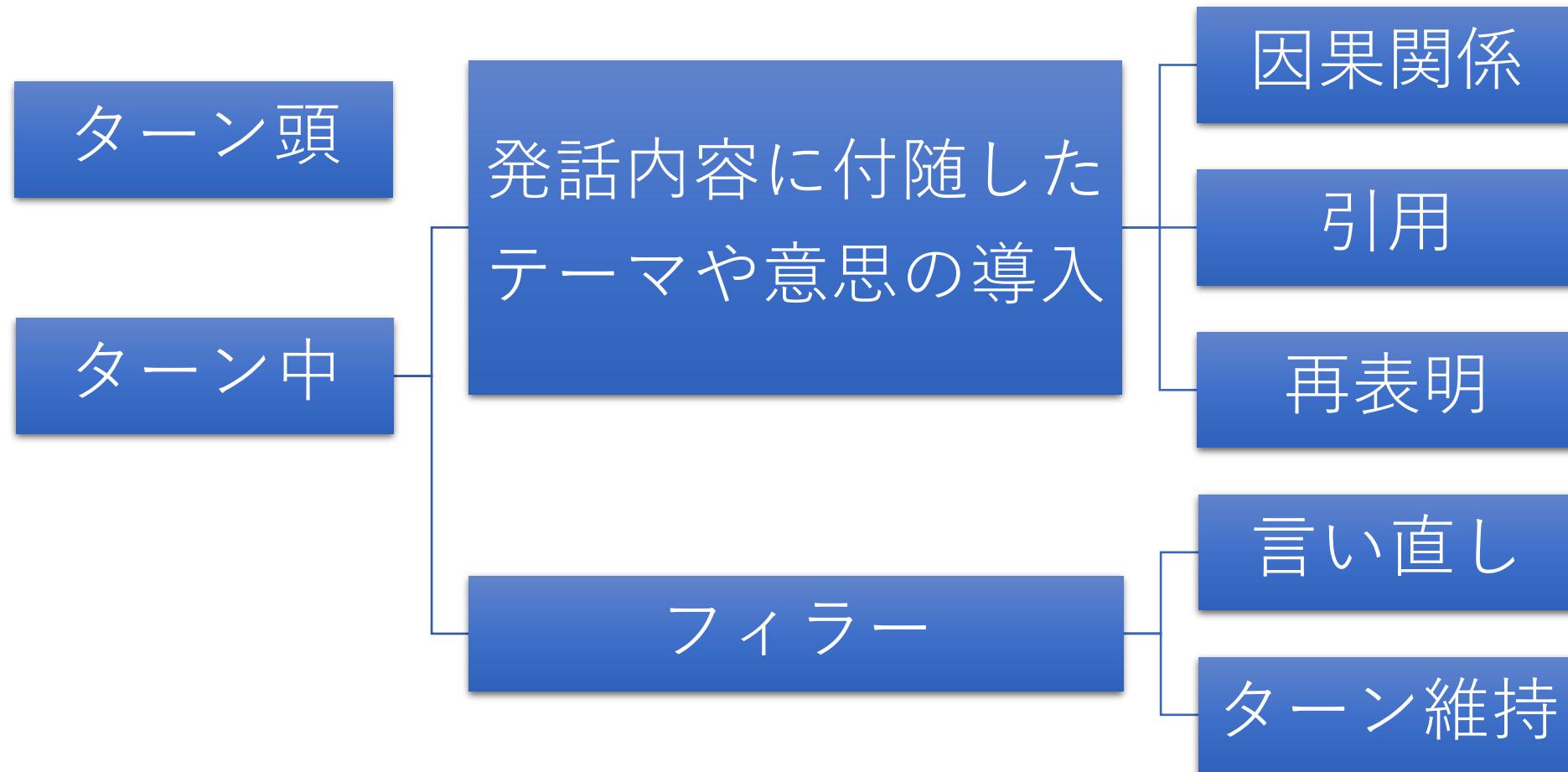
はじめに

はじめに

□2021年7月14日（日）科研B第1回研究会での報告

- Phonologie du Français Contemporain内の5つの地域コーパス（Roanne, Douzens, Liège, Nyon, Québec）を使用して、談話標識「bon」と「ben」（1-gram）の質的分析を試みた。
- Hansen (1995, 1998), Peltier et al. (2020)を基に、新たな分類基準を構築した。

はじめに



はじめに

- 「地域によって« bon », « ben »の機能ごとの使用数は異なる。その地域でしか見られない用法がある。」という結論に至った。

例) 引用のbonはケベックでしか見られない。

引用のbenはほとんどリエージュでしか見られない。

はじめに

- ・「地域差が本当にあるのか、コーパスを増やし統計的分析を進める必要がある。」という課題点を挙げた。
- ・「過剰使用する話者がいるために、地域差となってしまっている可能性はないかを調べてみてはどうか。」という助言をいただいた。

研究目的

- コーパス数を増やし、« bon »と« ben »の使用に地域差があるのかを分析する。
 1. 地域コーパスによる« bon », « ben »の使用数に統計的有意差が見られるか。
 2. 用法による« bon », « ben »の使用数に統計的有意差が見られるか。
 3. 地域と用法の組み合わせによって、« bon », « ben »の特定の用法に統計的有意差が見られるか。

コーパス

コーパス

□Phonologie du Français Contemporain (PFC)

- 14地域のコーパス
 - 自由会話
 - Floral –PFC – に公開されているデータ
 - サイトでlocuteurs（話者）と記載されている話者の発話

コーパス名（全14地域）



コーパス：分析対象

- 話者の発話（転写されたもの）から以下のデータを削除
 - ① 調査者の発話
 - ② 発話のターンに使用される発話者のイニシャル
 - ③ (ries), (bruit)などの発話以外の単語
 - ④ その他タグ

コーパス：コーパス規模

国	カナダ			ベルギー		スイス		
地域	Québec	Saguenay	Trois-Rivières	Liège	Gembloux	Nyon	Genève	Neuchâtel
話者数	7人	10人	12人	12人	12人	12人	9人	11人
token数	4292	28712	53458	10534	11047	12873	14665	11052

国	フランス（南部）			フランス（東部）			全体
地域	Douzens	Toulouse	Lacaune	Lyon	Grenoble	Roanne	総人数 150人
話者数	10人	12人	14人	11人	9人	9人	総token数 202741
token数	11808	10714	5690	10119	5283	12494	

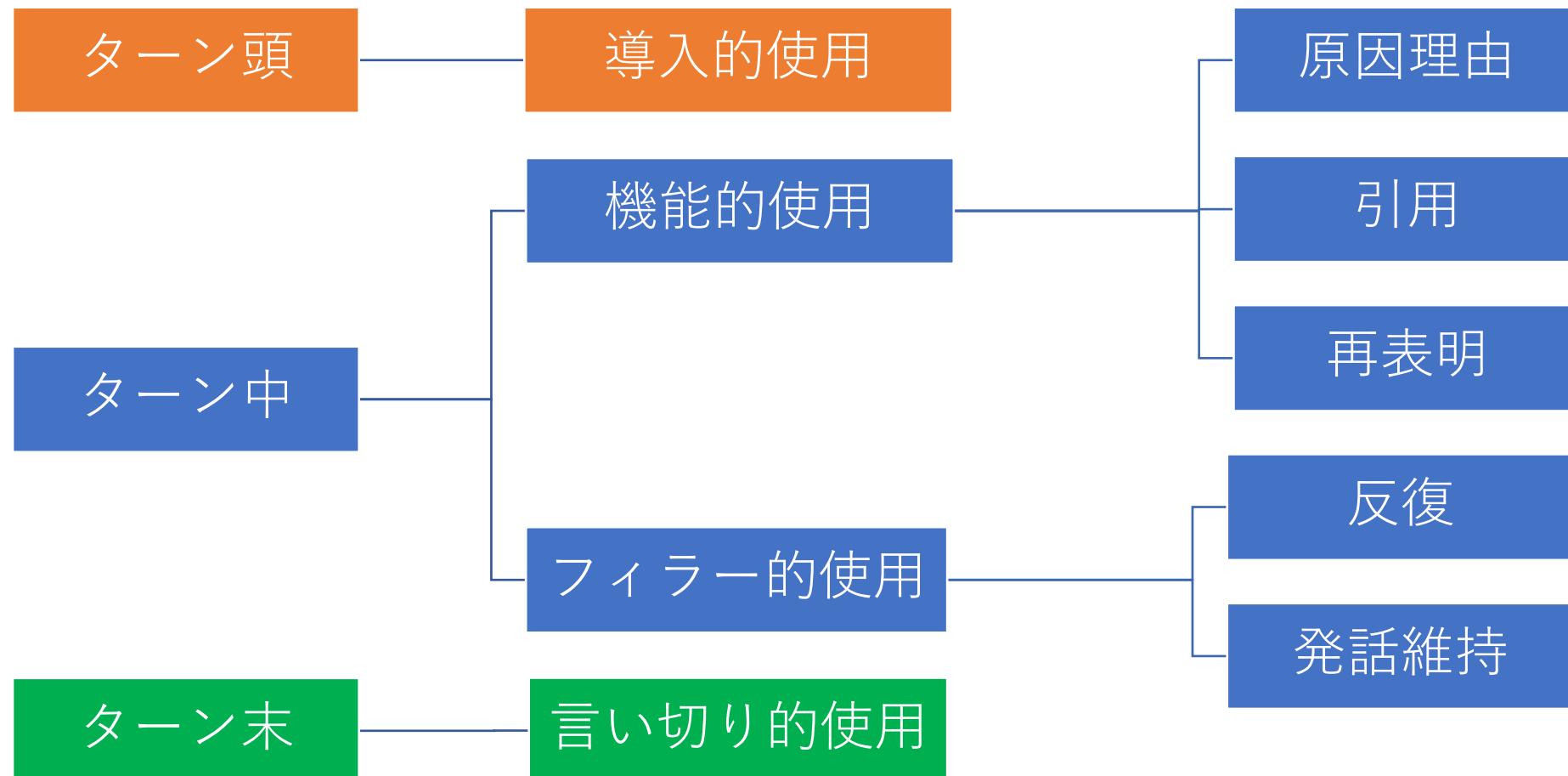
コーパス規模が異なるので、10万語あたりの相対頻度を使用して分析を進める。

分析方法

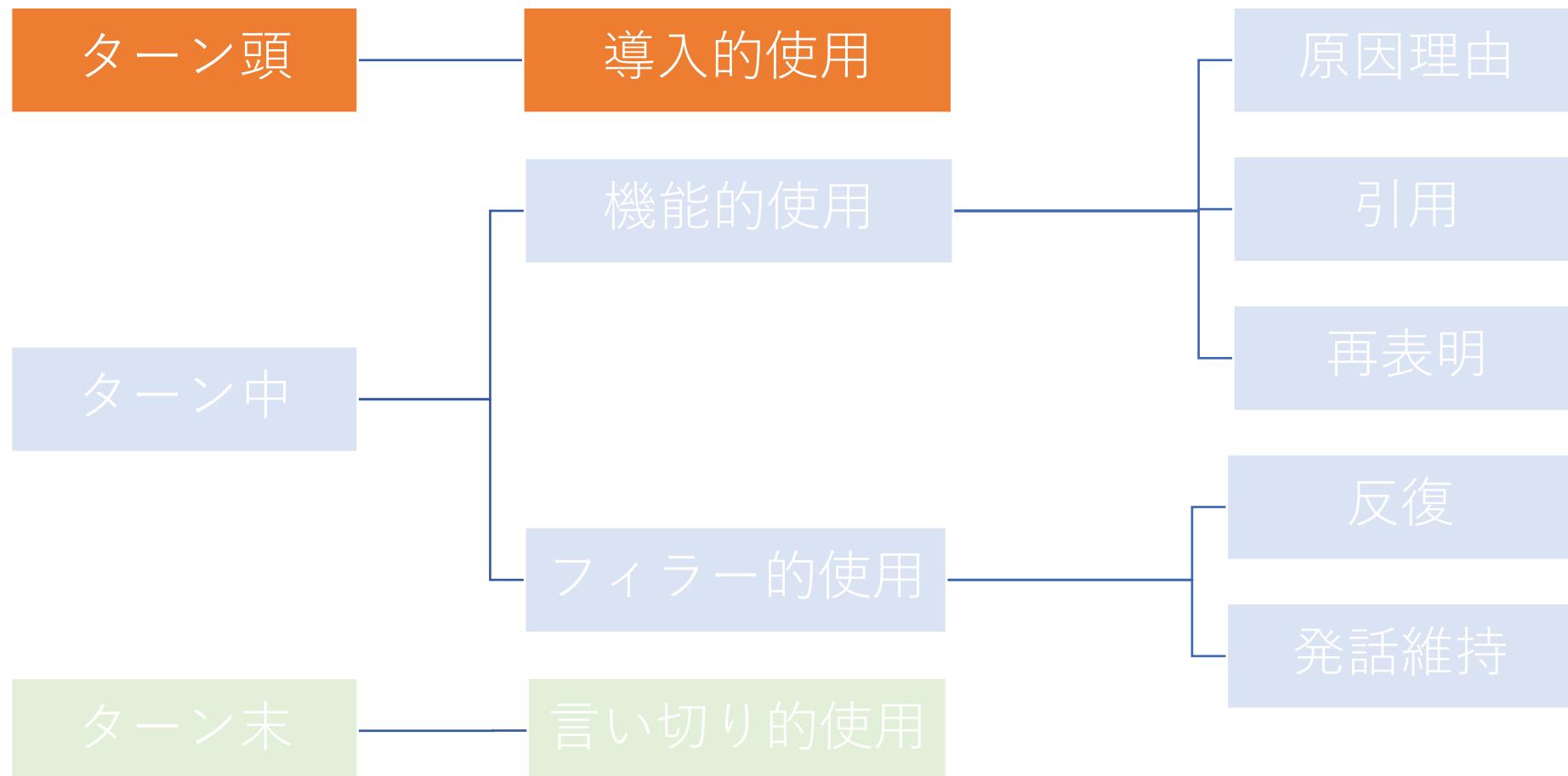
分析方法

1. 話者ごとの« bon »と« ben »の生起数を集計
(清宮：ベルギー&スイス, 大河原：カナダ&フランス)
2. 後述の分類基準で, « bon »と« ben »を分類
3. 統計的処理の実行, 結果の分析

分析方法：本研究のbonとbenの分類



分析方法：本研究のbonとbenの分類



ターン頭のbonとben

□導入的使用：自発的であるなしに関わらず何か新しいテーマや意思を導入

bonの例

MG : **bon**

De quoi qu'on parle (rires).

(en riant) Je sais pas, je pensais qu'il nous poserait des questions, moi.

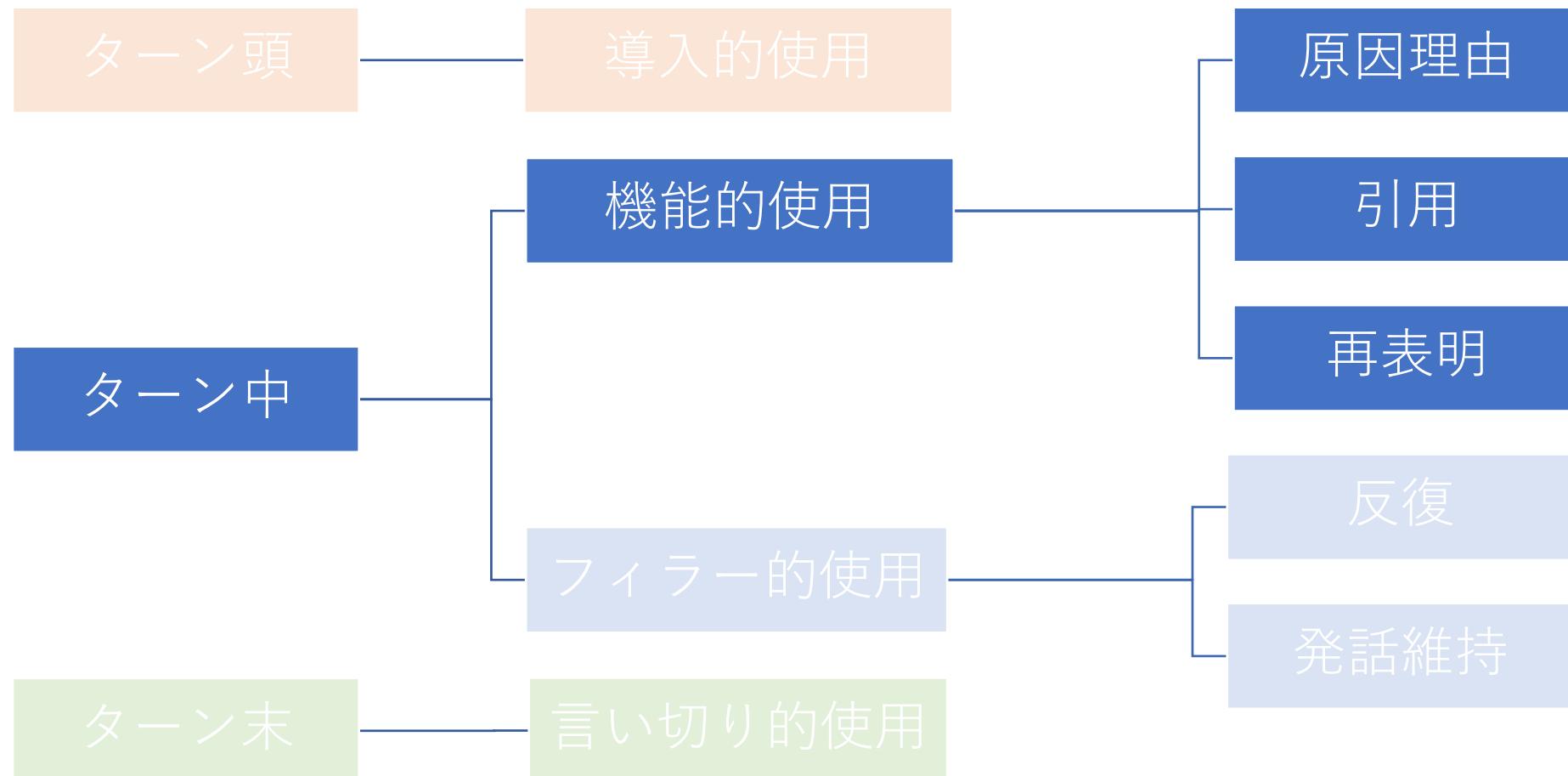
MG : さて

何を話そうか（笑い）。

（笑いながら）わかんないな、彼が私たちに質問すると思ってたんだけどな。

（ケベック）

分析方法：本研究のbonとbenの分類



ターン中のbonとben ①

□機能的使用

- 原因理由：前後の内容に原因もしくは理由が存在

bonの例

ML : euh bon quand les petits sont nés, ils sont nés avec le piano sous la, sous, sous la main, et, et voilà alors ils ont euh, **bon** ils ont aimé la musique, ...

ML : えっとまあ、子供たちが生まれたとき、ピアノが身近にあって生まれてきたから、それで、それで、ほらだからえっと、まあ子供たちは音楽が好きだった…（ドゥゼンス）

ターン中のbonとben ②

□機能的使用

- 引用：発話者による他の発話の内容の引用

benの例

BL: Euh il est venu faire le travail, oui et puis il nous a dit ben ok euh maintenant vous contacter le carreleur euh on peut carreler la salle de bain, puis tu as le carreleur qui vient voir et il dit 'ben, c'est pas prêt à carreler'.

E: Ouais.

BL : えー彼が仕事しに来て、うん、それで、私たちに「OK, そうしたらタイル職人に連絡して、浴室のタイルの張り替え工事できるから」それでタイル職人が見に来たんだけど、彼は「ああ、タイルを張る準備はできてないね」って言ったの。

E : うん (リエージュ)

ターン中のbonとben ③

□機能的使用

- 再表明：発話者の意見の再表明

bonの例

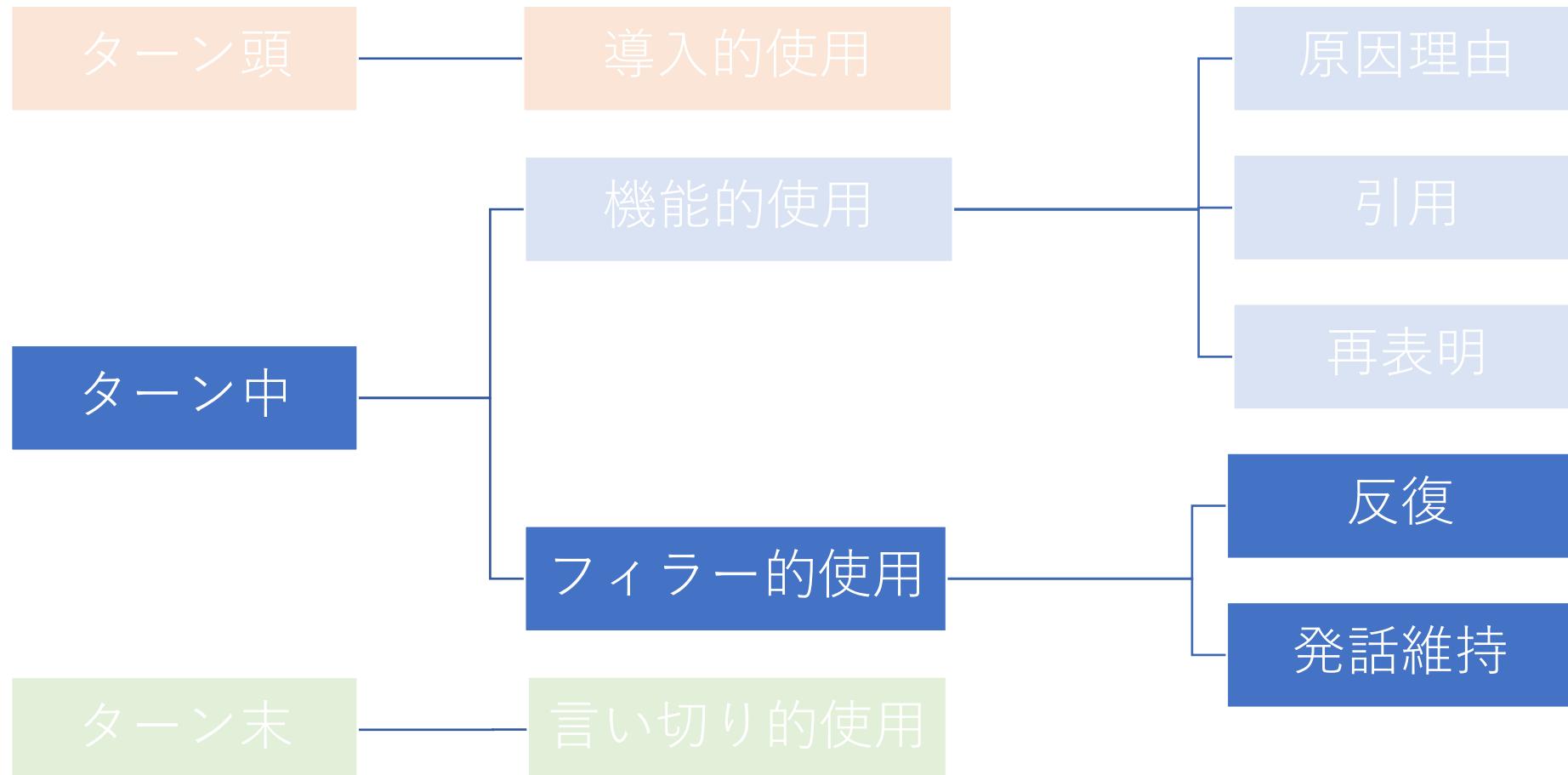
AB : Des des anciens, des personnes âgées qui ont leur <HE: patois> leur patois.

Dans le Haut-Valais aussi et puis à <JE : Oui, **bon** ça dans les vallées

AB : 古い、歳いった人は <HE : 俚言> 俚言を話すよね

Haut-Valaisとか、あとは <JE : うん、そう、谷の辺りとかね (ニヨン)

分析方法：本研究のbonとbenの分類



ターン中のbonとben ④

□フィラー的使用

- 言い直し：一度言いかけた語を、DMの後に再び発言

benの例

BB : ...euh, contrairement à, probablement, d'autres régions du monde peut-être surtout **ben**, pas surtout mais entre autres en Europe,

BB : ...えっと多分、世界の他の地域とは反対に特に、えっと、特にという訳でもないか、でもヨーロッパの地域の間では。（ケベック）

ターン中のbonとben ⑤

□フィラー的使用

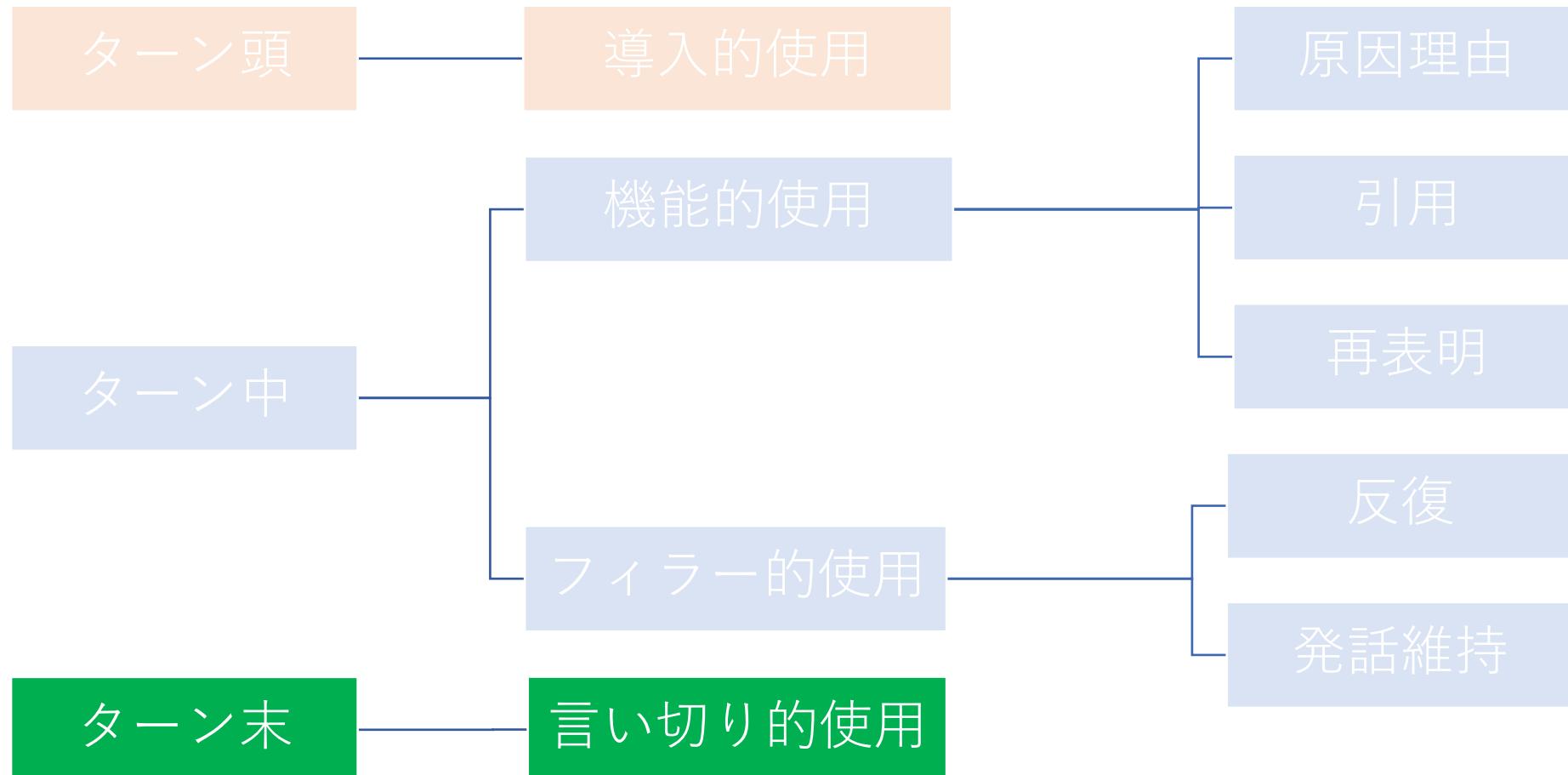
- 発話維持：前後の内容に因果関係が存在せず、発話の維持に使用

bonの例

R : Là comme chez nous bon il y a quatre cents, il y a quatre cents habitants quoi je crois, quatre cents, quatre cent vingt.

R : そこは私たちのところみたいに, 400, 400人だかの住人がいると思うのだけど, 400, 420人か。
(ロアンヌ)

分析方法：本研究のbonとbenの分類



ターン末のbonとben

□言い切り的使用：自分の意見を言い終えたことを提示

bonの例

FFR : mais on sait pas du tout ce qu'on va faire, ça se décidera ben, dans, dans dix jours **bon**

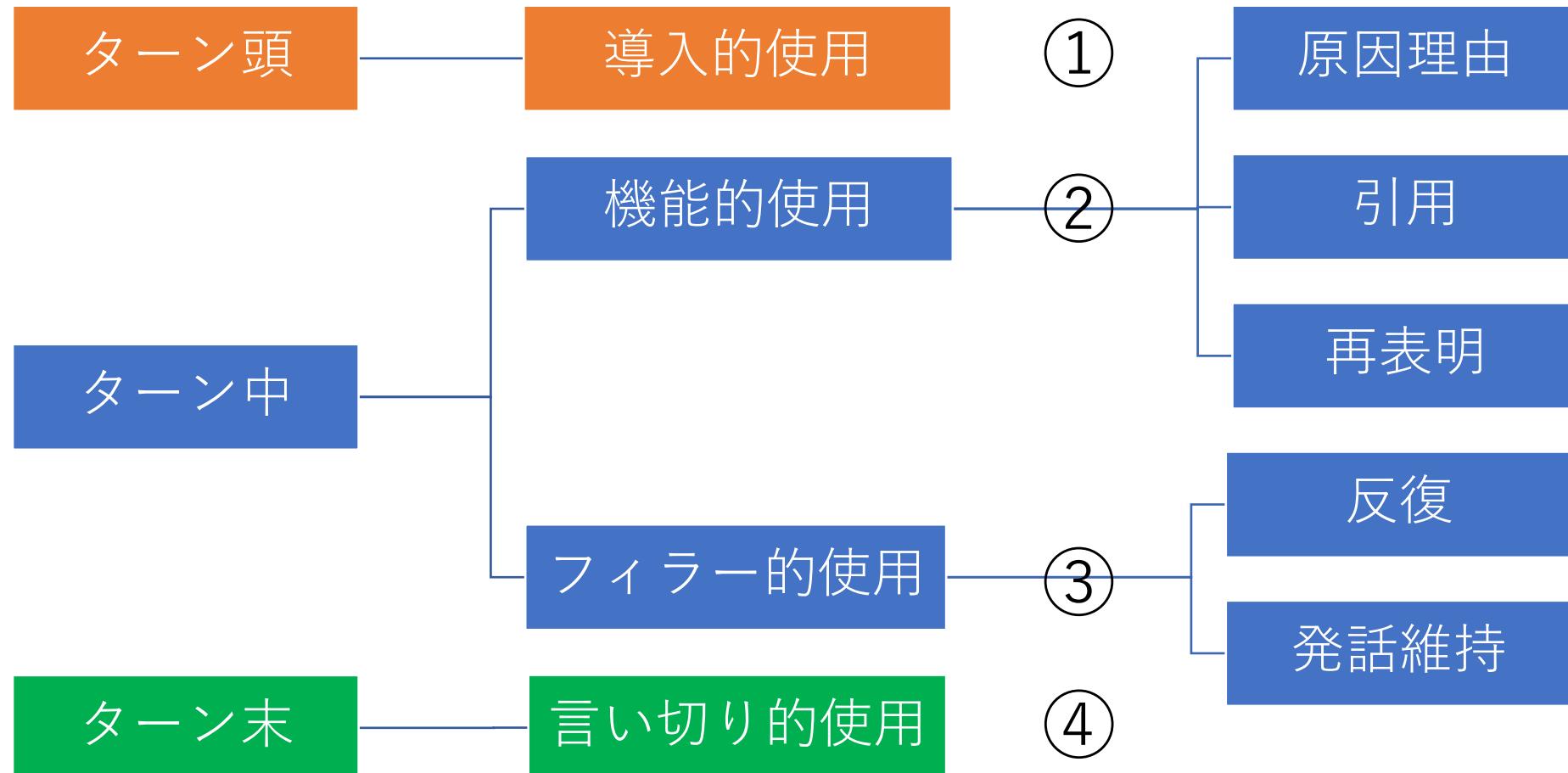
EC : J'ai pas envie d'aller dans un bar, ou en boîte ou

FFR : でもすることはまったくわからないんだよね、それが決まるのは、まあ10日後かな、
うん

EC : 私はバーには行きたいくないな、あるいはナイトクラブとか、それか

(トゥールーズ)

分析方法：本研究のbonとbenの分類



分析方法：分類における補足

- PFCの転写をそのまま使用した
- bonやbenの変種（Gembloixのbéなど）は、benとは別扱いした

分析方法：統計的分析について

- 統計処理
 - bon, ben共に 150×4 （人数×用法）の行列を使用
- ソフト
 - 地域コーパス間の分析
 - Anova4 on the Web (<https://www.hju.ac.jp/~kiriki/anova4/>)
 - 個人の分析
 - R及びR commander (vers. 3.6.3.)

分析方法：地域間の分析

- ・ソフト：ANOVA4 on the Web (<https://www.hju.ac.jp/~kiriki/anova4/>)
 - ・二元配置分散分析

因子A (地域コーパス)
因子B (用法 - ①, ②, ③, ④ -)
因子AとBの相互作用

それぞれに統計的な有意差があるのかを分析

- ・多重比較 (ライアンの方法)

統計的有意差ありの場合, 何と何に有意差があるのかを分析

分析方法：個人の分析

- ・ソフト：R 及びR commander (vers. 3.6.3.)
 - ・階層的クラスタリング（ウォード法・平方ユークリッド距離）

地域コーパス間に統計的有意差があった場合、同じ地域の話者は同じような傾向を示すのかを分析。

異なる地域コーパスの話者でクラスターを形成
⇒ 個人差もある可能性

分析

« bon » の分析 地域

« bon » の生起数 (10万語あたりの相対頻度)

地域	ターン頭 ① 導入的使用	ターン中		ターン末 ④ 言い切り的使用	合計
		② 機能的使用	③ フィラー的使用		
Québec	397	0	326	0	723
Saguenay	194	60	46	41	341
Trois-Rivières	129	75	361	22	587
Liège	0	579	503	0	1082
Gembloux	0	100	840	100	1040
Nyon	584	453	772	48	1857
Genève	80	210	825	0	1115
Neuchâtel	596	551	1029	0	2176
Douzens	322	1133	1890	77	3422
Toulouse	721	1039	3203	175	5138
Lacaune	231	0	246	0	477
Lyon	0	902	3112	292	4306
Grenoble	0	704	647	0	1351
Roanne	58	230	940	74	1302

« bon » 分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F值	p值
地域	568595.62	13	43738.12	3.82	0.0000****
誤差	1558505.93	136	11459.60		
用法	712614.08	3	237538.03	24.70	0.0000****
誤差	3924430.42	408	9618.70		
地域*用法	731254.69	39	18750.12	1.95	0.0008****

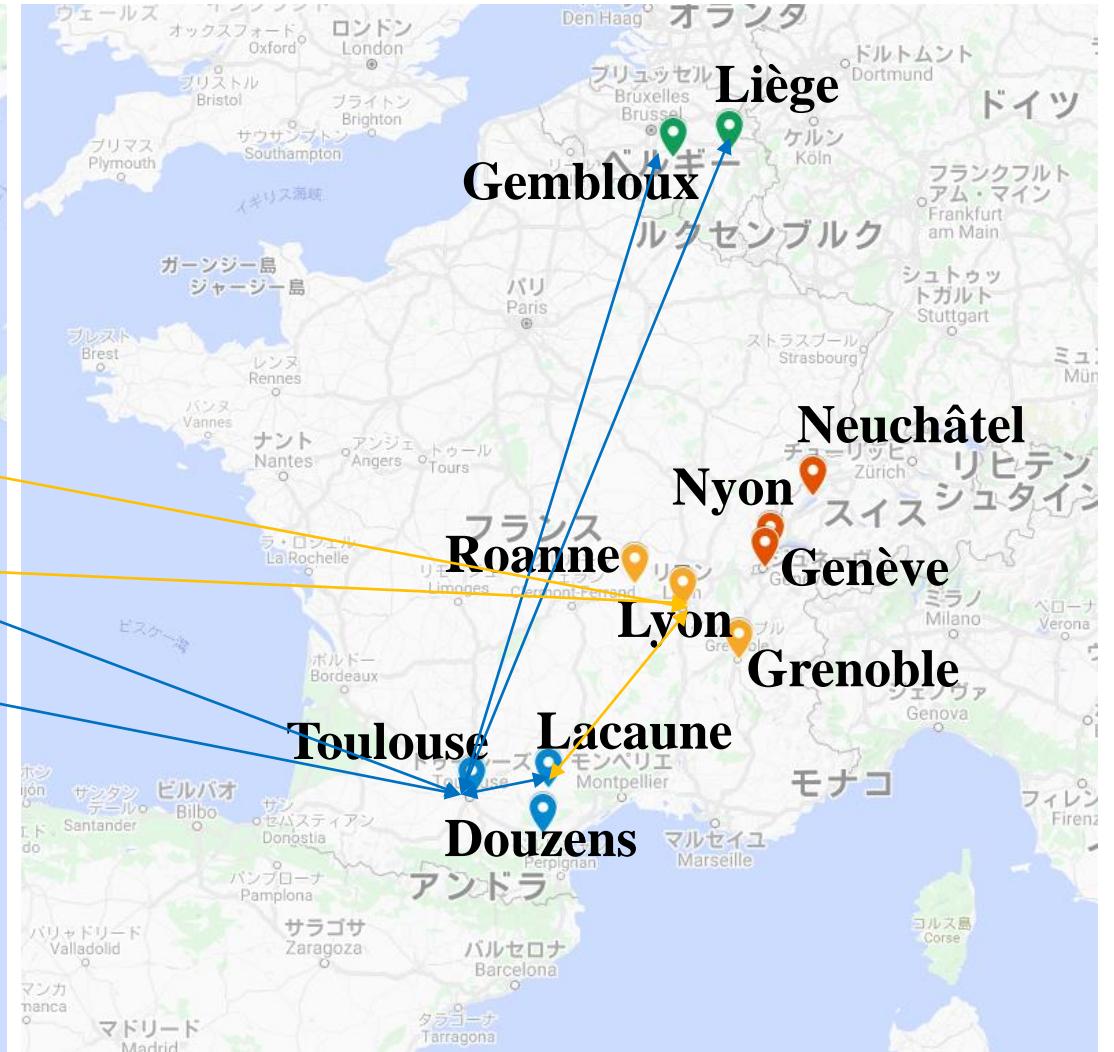
要因A：地域

要因B：用法

p値以外は小数第三位で四捨五入

**** p <0.001

« bon » 《要因 「地域コーパス」 の主効果における多重比較》



« bon » 《要因 「用法」 の主効果における多重比較》

用法①：ターン頭

用法②：ターン中 - 機能的用法

用法③：ターン中 - フィラー的用法

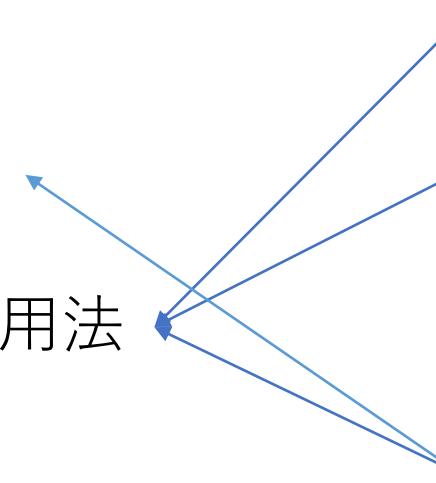
用法④：ターン末

用法①：ターン頭

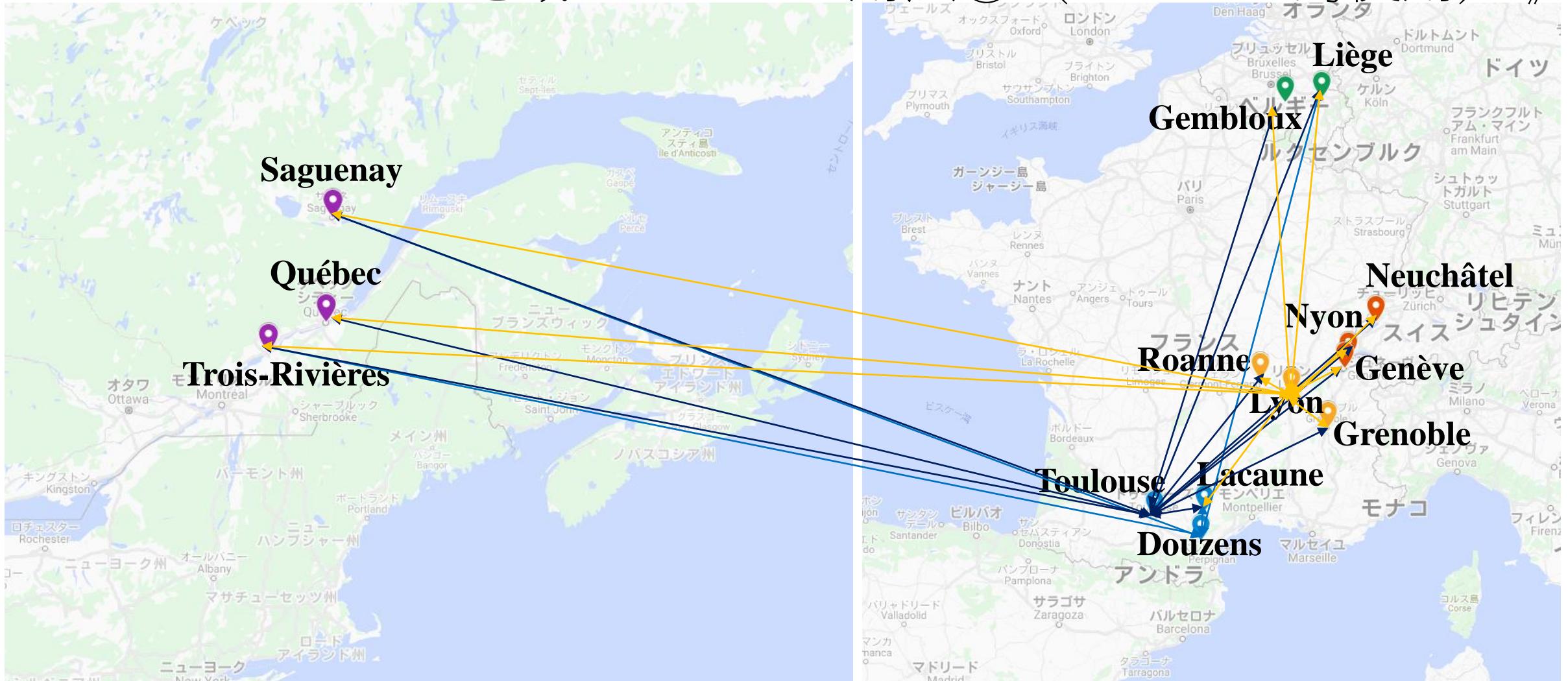
用法②：ターン中 - 機能的用法

用法③：ターン中 - フィラー的用法

用法④：ターン末



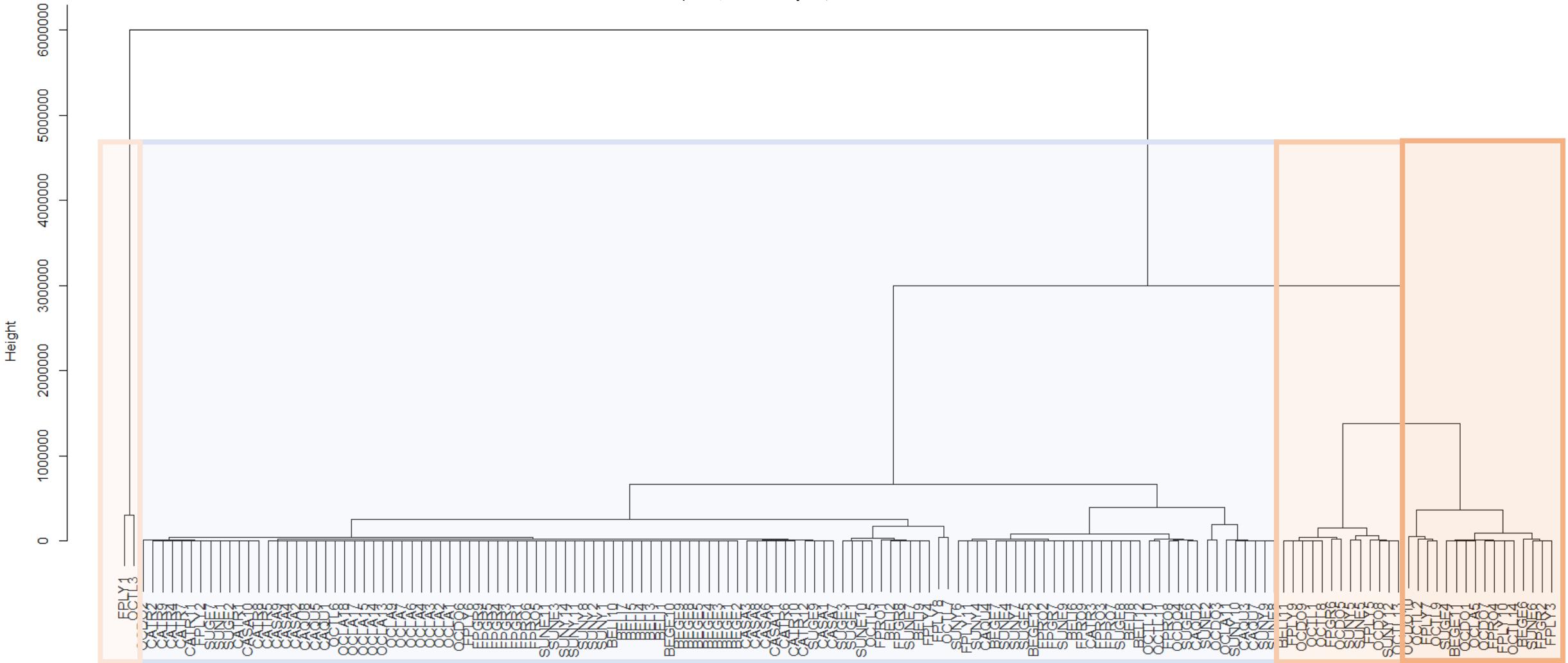
« bon » 《相互作用（地域コーパスと用法）の多重比較 地域コーパスと用法③（フィラー的使用）》



« bon » の分析 個人

« bon » 話者150人のクラスタリング分析

ウォード法 平方ユークリッド

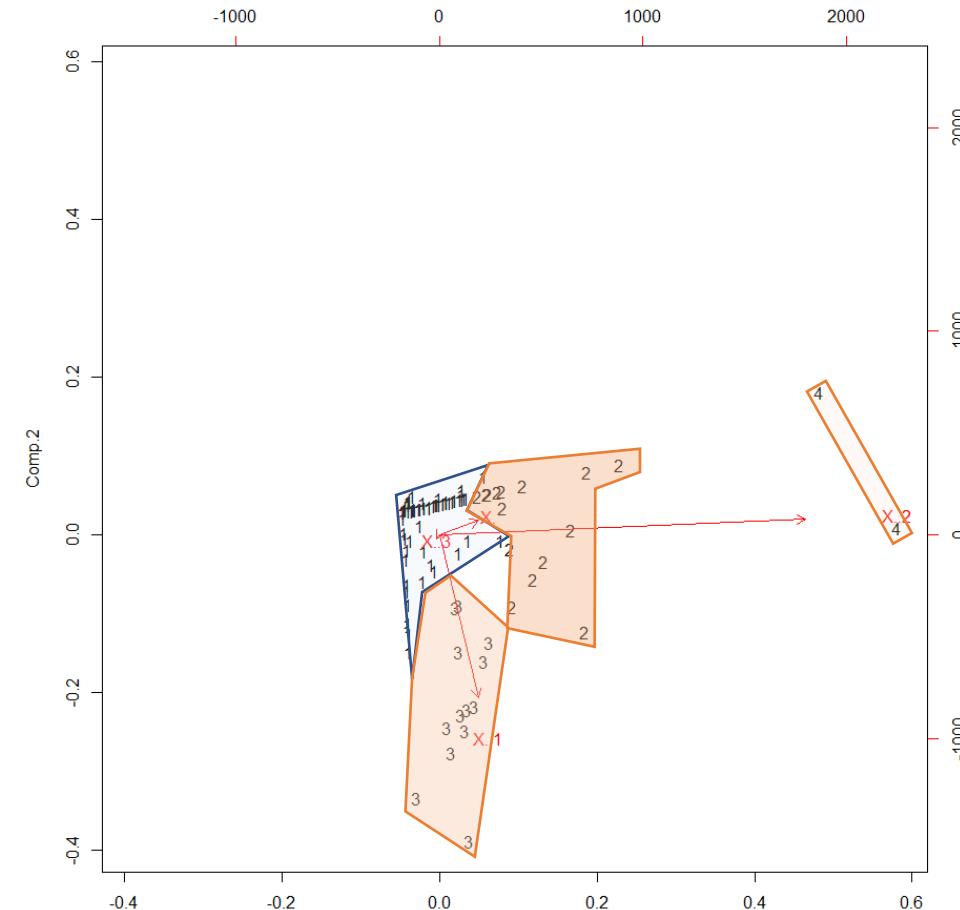


Observation Number in Data Set bon_4
Method=ward; Distance=squared-euclidian

« bon » 話者150人のクラスタリング分析 ウォード法 平方ユークリッド

群	人 数	話者の特徴	地域 (コーパス)
1	119	・ bon 少	全地域
2	16	・ bon 多 ・ ③多	Gembloix, Neuchâtel, Genève, Roanne, Grenoble, Lyon, Douzens, Lacaune, Toulouse
3	13	・ bon 多 ・ ②多 ・ ③多	Liège, Nyon, Neuchâtel, Grenoble, Lyon, Douzens, Toulouse
4	2	・ bon 多 ・ ③極多	Lyon, Toulouse

→ 個人差もあることを示唆



« ben » の分析 地域

« ben »の生起数 (10万語あたりの相対頻度)

地域	ターン頭 ① 導入的使用	ターン中		ターン末 ④ 言い切り的使用	合計
		② 機能的使用	③ フィラー的使用		
Québec	1705	442	576	0	2723
Saguenay	1868	640	1013	0	3521
Trois-Rivières	2860	1180	3032	63	7135
Liège	1791	1816	1327	0	4934
Gembloux	626	551	1786	218	3181
Nyon	900	213	322	0	1435
Genève	402	594	1253	80	2329
Neuchâtel	1465	340	3093	0	4898
Douzens	1522	0	141	0	1663
Toulouse	266	83	338	0	687
Lacaune	630	0	702	0	1332
Lyon	471	182	1854	0	2507
Grenoble	808	720	526	0	2054
Roanne	1127	892	1562	225	3806

« ben » 分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F值	p值
地域	802449.85	13	61726.91	4.570	0.0000***
誤差	1837438.93	136	13510.58		
用法	1278718.45	3	426239.48	43.99	0.0000***
誤差	3953054.92	408	9688.86		
相互作用	1123032.89	39	28795.72	2.97	0.0000***

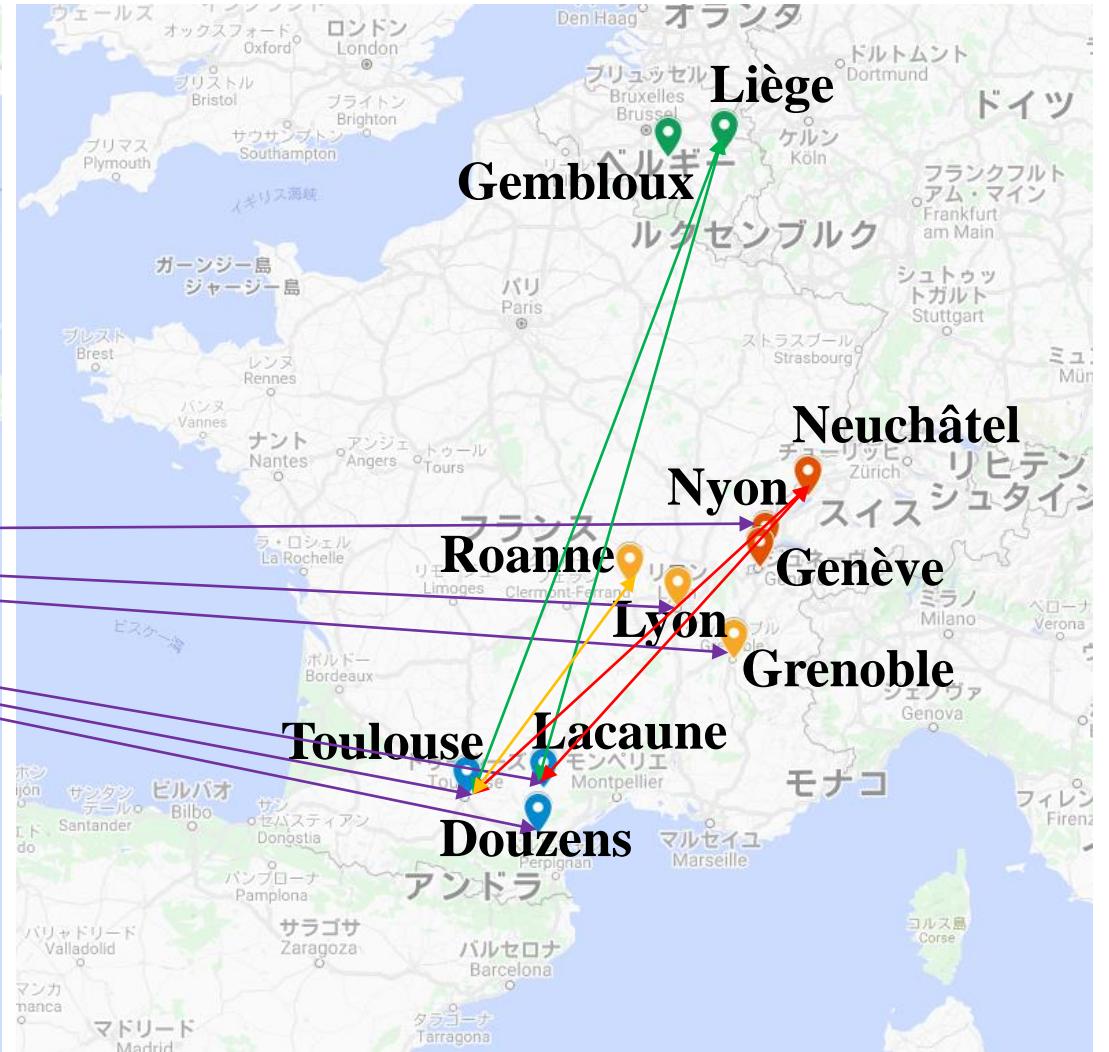
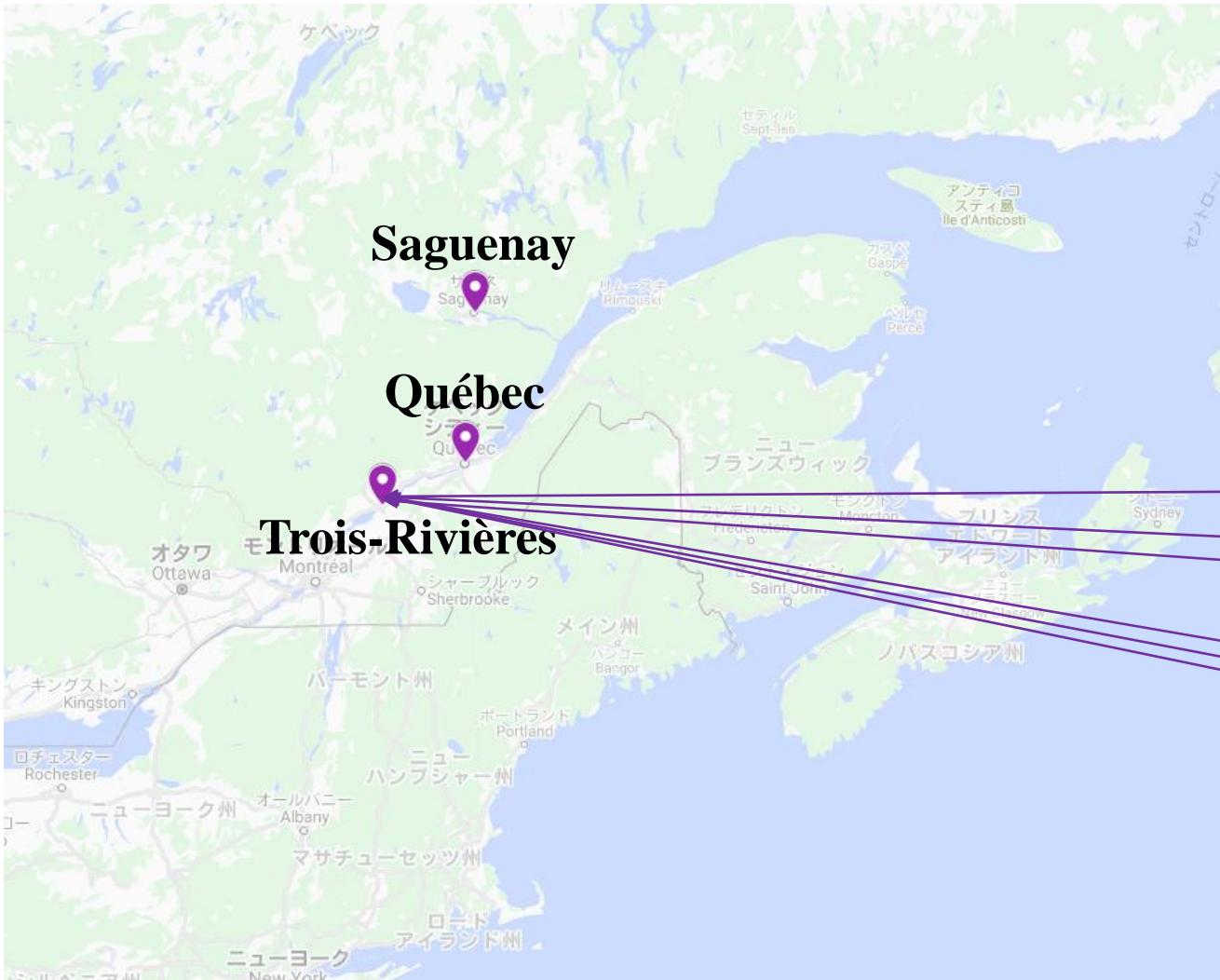
要因A：地域

要因B：用法

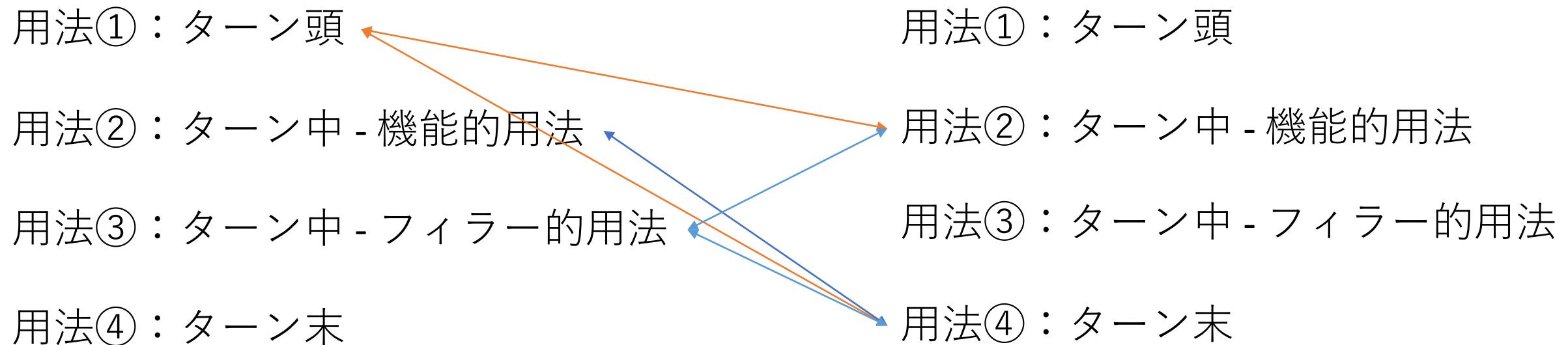
p値以外は小数第三位で四捨五入

*** p <0.001

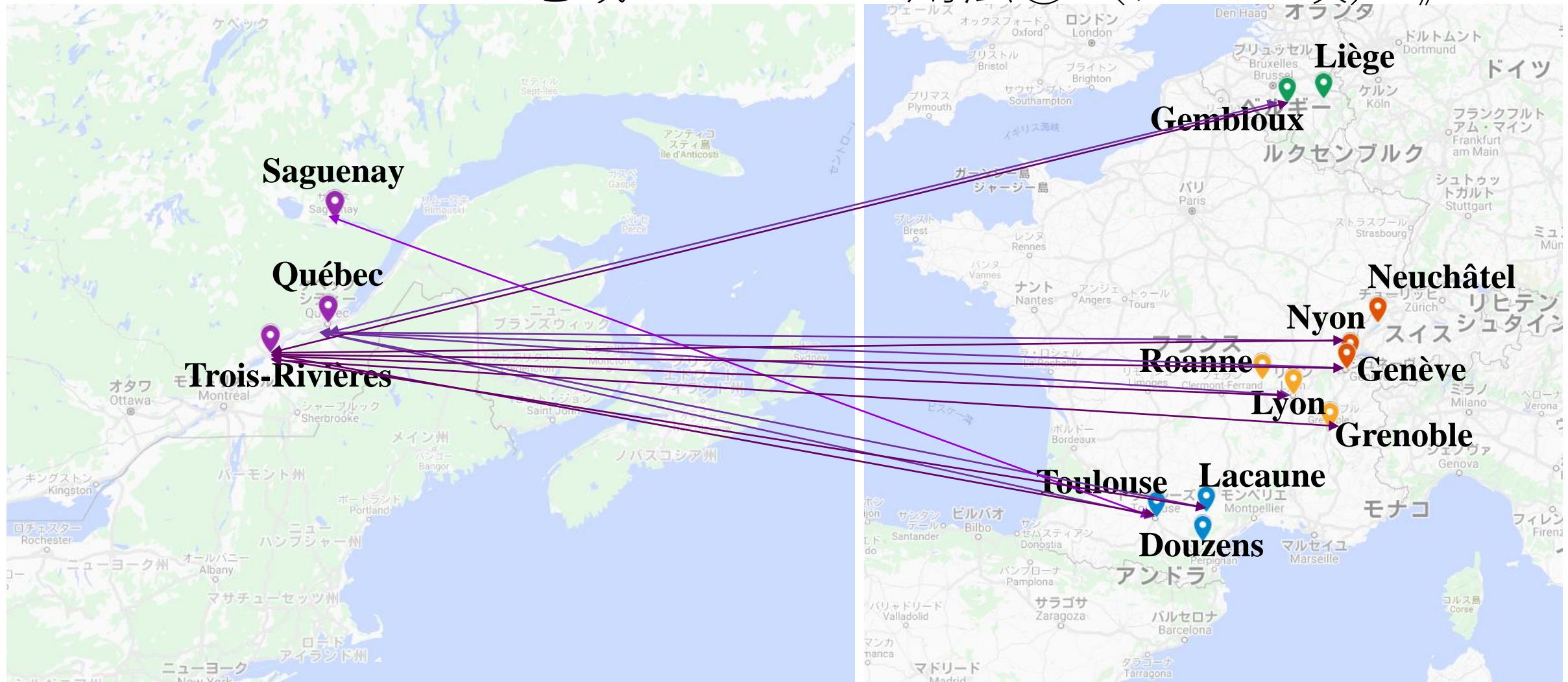
« ben » 《要因 「地域コーパス」 の主効果における多重比較》



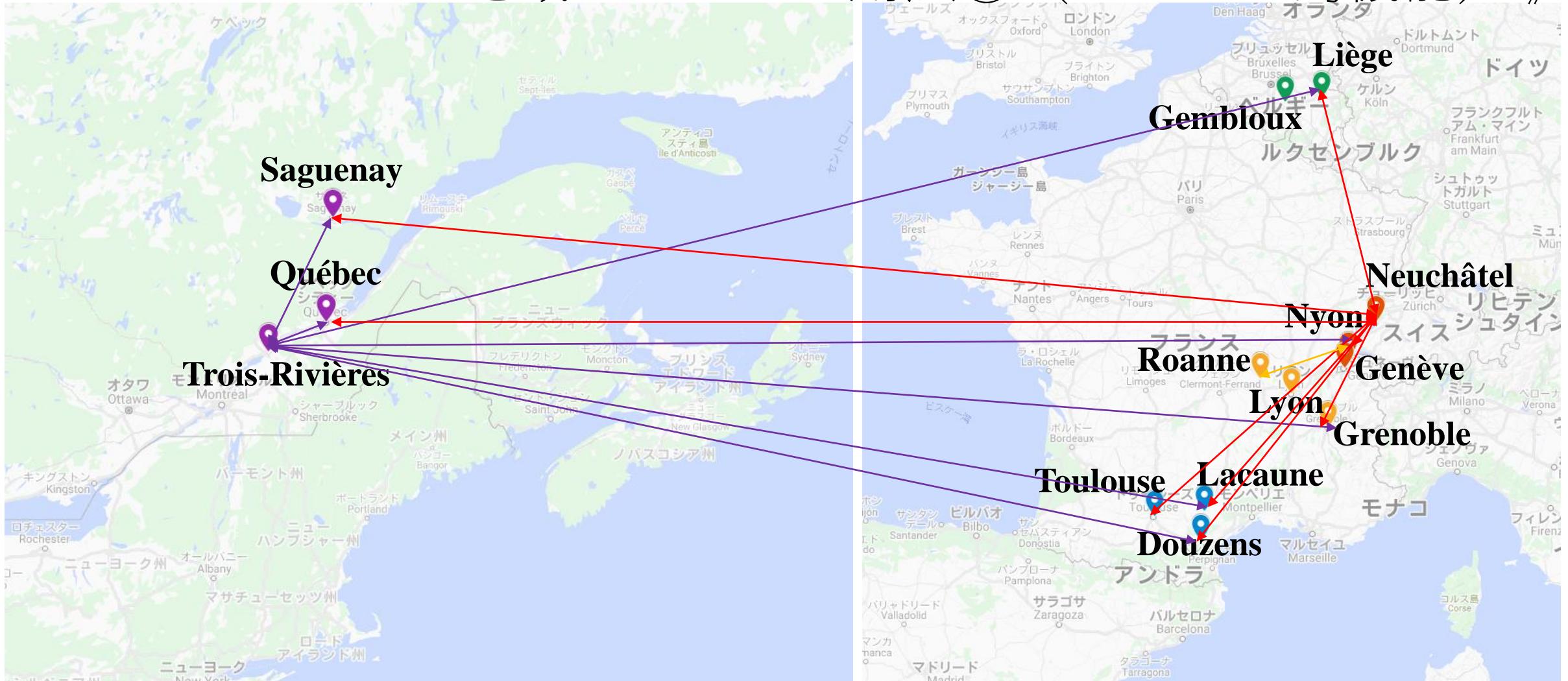
« ben » 《要因 「用法」 の主効果における多重比較》



« ben » 《相互作用（地域コーパスと用法）の多重比較 地域コーパスと用法①（ターン頭）》



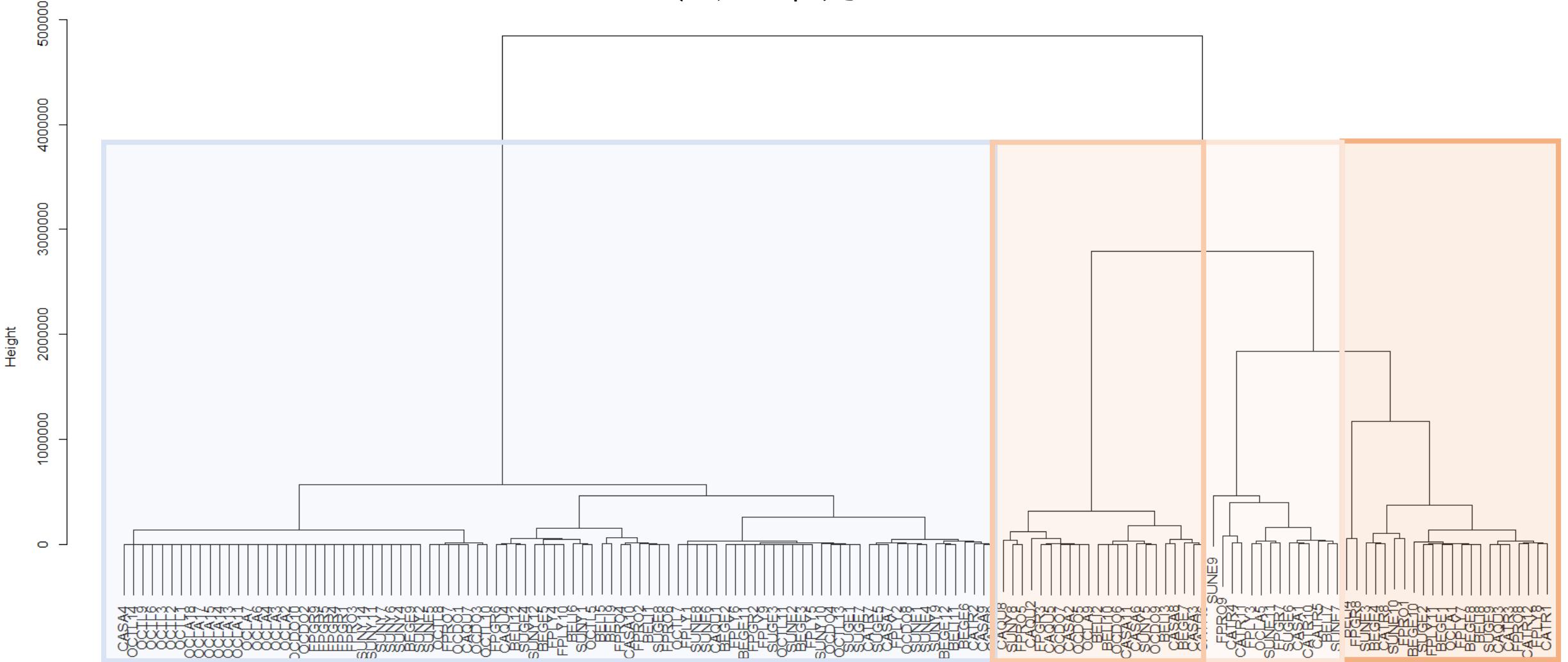
« ben » 《相互作用（地域コーパスと用法）の多重比較 地域コーパスと用法③（フィラー的機能）》



« ben » の分析 個人

« ben » 話者150人のクラスタリング分析

ウォード法 平方ユークリッド

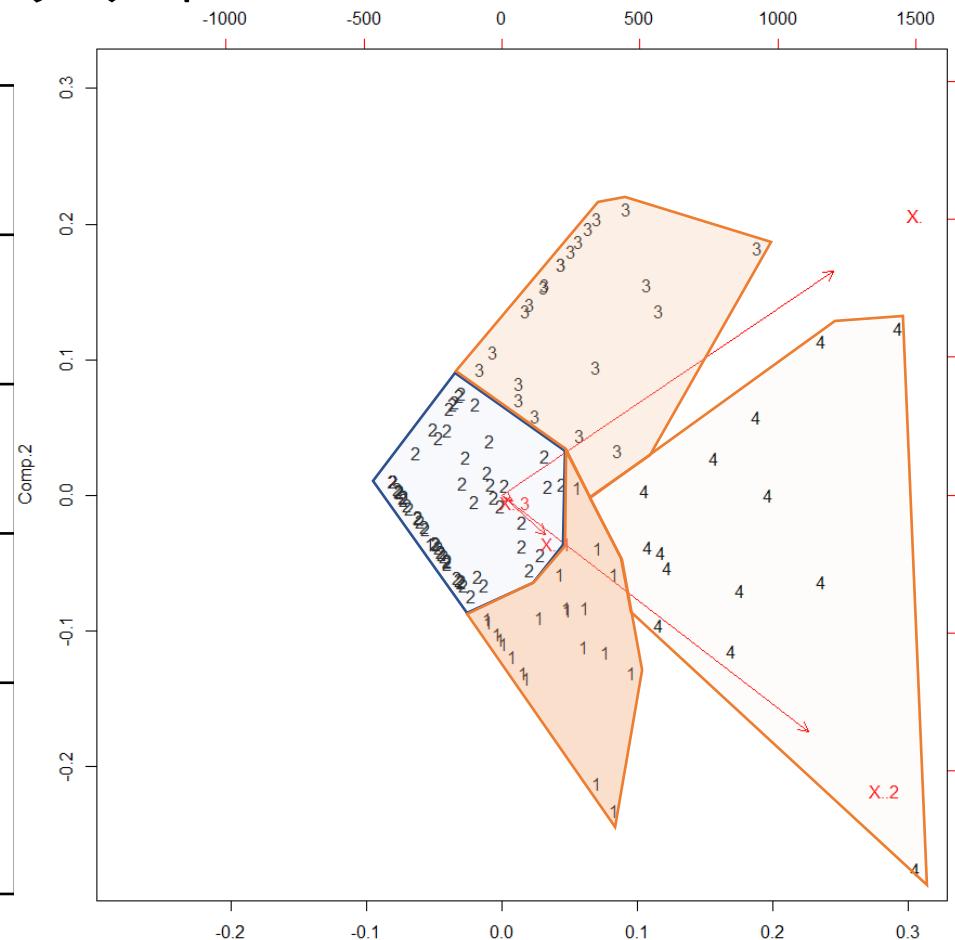


Observation Number in Data Set ben4
Method=ward Distance=squared-euclidean

« ben » 話者150人のクラスタリング分析 ウォード法 平方ユークリッド

群	人 数	話者の 特徴	地域 (コーパス)
2	92	・ ben 少	全地域
1	22	・ ben 多 ・ ③多	Saguenay, Nyon, Douzens, Toulouse 以外の10 地域
3	22	・ ben 多 ・ ①多	Neuchâtel, Genève, Lyon, Toulouse 以外の10 地域
4	14	・ ben 多 ・ ①多 ・ ③多	Liège, Neuchâtel, Genève, Roanne, Grenoble, Lyon, Lacaune, Saguenay, Trois-Rivières

→ 個人差もあることを示唆



結論

結論

- « bon »と« ben »の使用に地域差があるのかを分析する。
 1. コーパスによる« bon », « ben »の使用数に統計的有意差が見られるか。
A. 見られた
 2. 用法による« bon », « ben »の使用数に統計的有意差が見られるか。
A. 見られた
 3. 地域と用法の組み合わせによって, « bon », « ben »の特定の用法に統計的有意差が見られるか。
A. 見られた

結論

- 地域差だけでなく、個人差もあることが示唆された。
- 談話標識 « bon »と« ben »の使用は、地域によっても、用法によっても、個人によっても異なることが明らかになった。

今後の課題

- より大きな地域圏同士の比較（カナダ vs 南仏など）でも、有意差が見られるほど「bon」と「ben」の使用が異なるか分析。
- 規範（辞書）や、言語共同体（全体での共通点）という観点を含めた分析。
- 2-gramsを含む分析。

引用文献①

DETAY, S. et al. (2010). *Les variétés du français parlé dans l'espace francophone: ressources pour l'enseignement*, Paris : Editions OPHRYS.

HANSEN, M. –B. M. (1995). « Marqueurs métadiscursifs en français parlé : l'exemple de bon et de ben », *Le français moderne LXIII N°1*, 20-41. Paris : Édition CILF.

_____ (1998). “The semantic status of discourse markers”, *Lingua* 104, 235-260. Amsterdam : Elsevier.

LEFEUVRE, F. (2011). « Bon dans le discours oral : une unité autonome ? » halshs-00797188.

PELTIER J. P. G. et al. (2020). « Le marqueur discursif bon : ses fonctions et sa position dans le français parlé ». In: *Congrès Mondial de Linguistique Française - CMLF 2020*.

URL (PFC コーパス)

BÜHLER, N. et I. RACINE (2011). Neuchâtel. <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=144>, *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 30.10.2021.

引用文献②

- DURAND, J. (2001). Douzens. <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=%202>. *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 08.06.2020.
- (2006). Toulouse. <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=6>, *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 30.10.2021.
- DURAND, J. et al. (2002), “La phonologie du français contemporain: usages, variétés et structure”, In C. Pusch & W. Raible (éds), *Romanistische Korpuslinguistik- Korpora und gesprochene Sprache/Romance Corpus Linguistics – Corpora and Spoken Language*, Tübingen : Gunter Narr Verlag, 93-106.
- FRANCARD, M. (2006). Liège. <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=%2084>. *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 08.06.2020.
- (2007). Gembloux. <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=83>, *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 30.10.2021.
- LAKS, B. (2002). Roanne. <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=%2030>. *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 08.06.2020.
- (2004). Lyon. <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=57>, *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 08.06.2020.

引用文献③

- LYCHE, C. (2004). Nyon. <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=%2089>, *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 08.06.2020.
- (2006). Université Laval (Québec). <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=%2065>, *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 08.06.2020.
- (2006). Saguenay. <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=145>, *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 08.06.2020.
- (2009). Genève. <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=111>, *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 30.10.2021.
- (2014). Trois-Rivières. <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=146>, *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 30.10.2021.
- MEISENBURG, T., (2002). Lacaune. <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=86>, *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 30.10.2021.
- VALLÉE, N. (2001). Grenoble. <https://research.projet-pfc.net/enquetes.php?id=61>, *Phonologie du Français Contemporain: Base PFC recherche*. Téléchargé le 30.10.2021.
- Phonologie du français contemporain*. <https://www.projet-pfc.net/>

謝辞

- JSPS科研費[20K00566]「現代フランス語話し言葉における談話標識と言語変異の記述」，基盤研究(C), 2020-2023年, 研究代表者 秋廣尚恵
- JSPS科研費[20H01279]「言語変異に基づくフランス語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析」，基盤研究(B), 2020-2023年, 研究代表者 川口裕司

ご清聴ありがとうございました